

旭川都心地区

(北海道 旭川市)

- 計画期間 平成22年度～平成26年度
- 面積 478ha
- 交付対象事業費 4,764百万円
- 市人口 350,929人（地区内人口15,219人）

ポイント

既存都心部と北彩都地区を有機的に連携し、地域の資源を活かして拠点性の高い活力ある都心空間を創造し、中心市街地の再生を図る。

目標

- 都市の文化を活かした高質空間の整備（文化）
- 都心部の交通利便と都市内回遊性の向上（交通）
- 増加する観光需要を支え、さらに都心部に呼び込む環境整備（経済）
- 地域資源を活かし、市民が集い交流できる都市空間の整備（交流）

地区概要

JR旭川駅に隣接する買物公園は、隣接する大型百貨店の閉店などにより通行量が減少、旭川都心部の魅力が失われつつある。そこで、買物公園を中心とする中心市街地の再生を目指すため、空き店舗対策などを推進し、中心市街地への魅力を高め、北彩都地区や地域資源に恵まれた常磐公園、神楽文化交流地区などと連携、都心部への魅力の向上を図る。また、旭山動物園などの観光客を都心へ誘導することで楽しく賑わいのある都心部の形成を目指す。

指標 旭川都心地区の魅力の向上、にぎわいの創出に繋がる目標とした。

旭川駅前広場、買物公園、銀座通等におけるイベント回数	36回/年（H20）	→	50回/年（H26）
買物公園の放置自転車台数	600台（H21）	→	200台（H26）
観光情報センターの利用者数	50,922人/年（H20）	→	55,000人/年（H26）
公会堂の年間利用率（利用日数/利用可能日数）	41%（H18）	→	55%（H26）

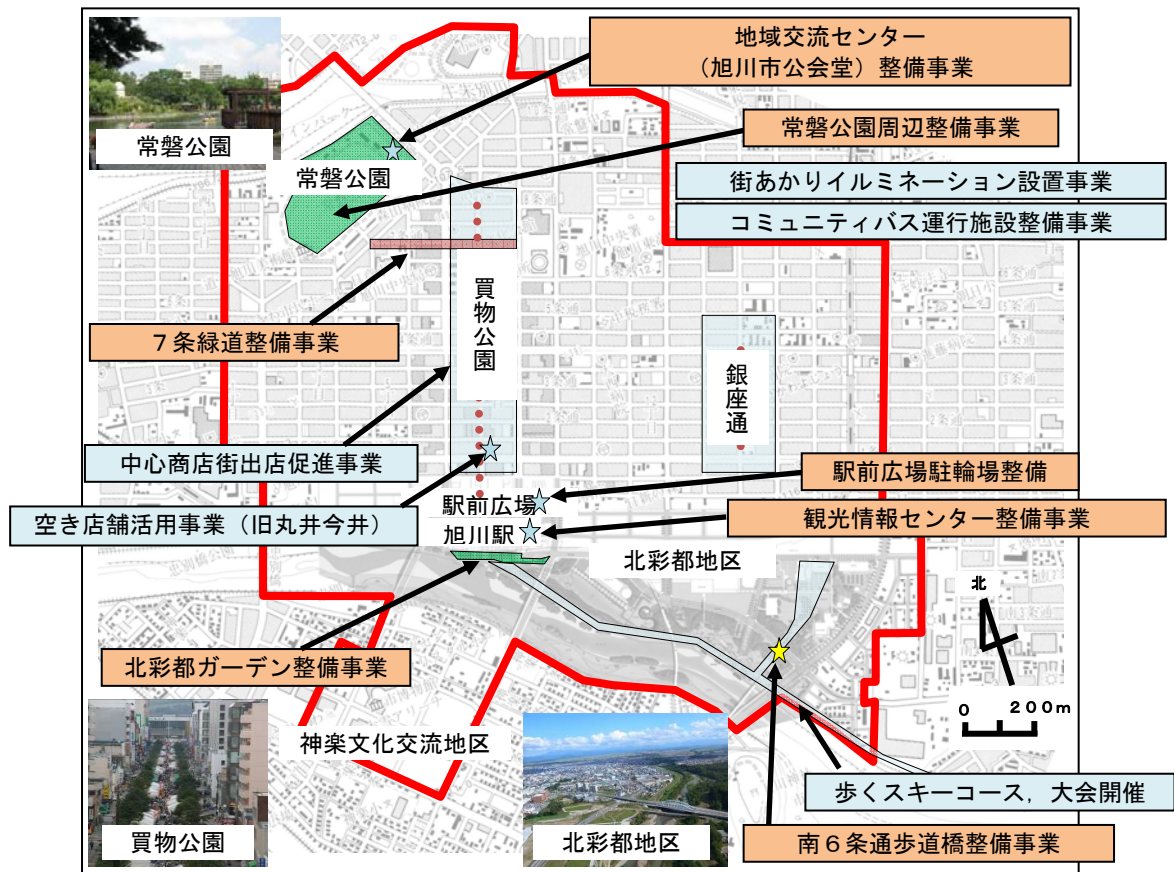
事業内容

基幹事業（3,836百万円）

- 高質空間形成施設（北彩都ガーデン整備事業、7条緑道整備事業、常磐公園周辺整備事業、南6条歩道橋整備事業）、高次都市施設（観光情報センター整備事業）、既存建物活用事業（地域交流センター（旭川市公会堂）整備事業）、地域生活基盤施設（駅前広場駐輪場整備）など

提案事業（928百万円）

- 地域創造支援事業（空き店舗活用事業（旧丸井今井）、中心商店街出店促進事業、街あかりイルミネーション設置事業、コミュニティバス運行施設整備事業）、まちづくり活動推進事業（歩くスキーコース、大会開催）、など



地区の現況と課題

【現況・地区特性】

- ・JR旭川駅を中心とした旭川都心地区は、北海道の経済・行政・文化・芸術などにおいて拠点機能を担っている。
- ・国鉄民営化により中心部に生み出された駅周辺の土地を利用した北彩都地区にて、川と一体となった新たなまちづくり「北彩都あさひかわ整備事業」が進められている。
- ・一方、全国初の恒久的な歩行者天国である買物公園を中心とする中心商店街エリアでは、空き店舗が増加し、さらに、老舗デパートである丸井今井旭川店が閉店するなど、その衰退が顕著である。

【課題】

- ・中心部に多くの人を呼び込む集客機能の整備や空き店舗対策が必要である。
- ・恵まれた既存の地域資源の有効利用策を見出す必要がある。

提案事業の特徴

●地域創造支援事業（空き店舗活用事業（旧丸井今井））

- ・旧丸井今井旭川店の再生として、子どもの遊び場など交流できる都市空間を整備し、利用者の買物公園への回遊性を高める。

●地域創造支援事業（中心商店街出店促進事業）

- ・空き店舗対策として、出店希望者に対しての家賃補助、さらに出店しやすい環境整備や積極的な誘致活動を実施する。

●地域創造支援事業（街あかりイルミネーション設置事業）

- ・中心市街地の主要な歩行空間にイルミネーションを設置し、新たな魅力を創出し、市民や観光客の回遊性を高める。

計画策定プロセス

- ・中心市街地活性化基本計画の活性化事業 64 事業のうち、28 事業が本整備計画に基づく事業である。
- ・この計画策定に向けては、民間事業者や多くの市民が参画している中心市街地活性化協議会で2年間にわたり議論するなど、オール旭川の総意により策定している。

旭川市 西川将人 市長のコメント

まちづくりシナリオ賞を受賞することができ、大変嬉しく思っております。

本市では、中心市街地の再生を目指して実施している中心市街地活性化基本計画の活性化事業に対して、まちづくり交付金を活用することで、恵まれた本市の地域資源を最大限に活用した拠点性の高い、活力ある都心空間作りに取り組んでおります。

このたびは、旧丸井今井旭川店での市の整備事業や、北彩都ガーデン整備事業などの整備の内容、さらに、空き店舗対策など交付金制度の利点を活かしたソフト事業などについての評価をいただいたものと考えております。

今後とも、今回評価をいただいた「テーマの策定」、「まちづくりのアイデア」、「計画策定のプロセス」の3つの視点を意識しながら、魅力的で活力のあるまちづくりを進めて参りたいと思います。

旭川市中心市街地活性化協議会

新谷龍一郎 会長のコメント

本市の中心市街地は、長年に渡り、様々な都市機能が集積するまちの中心として重要な役割を担い、これまで本市の発展を支えてきました。

しかしながら、大規模集客施設の郊外進出などに伴い、中心市街地の地盤沈下が急速に進み、このことにより全市的な発展が阻害される可能性が出てきたため、多くの市民が危機感を抱くようになりました。

こうした状況を乗り越え、新しい地平を切り開くため、本協議会では、中心市街地活性化を本市全体の重要課題と捉え、魅力あるまちづくりを目指し協議を重ね、旭川市中心市街地活性化基本計画の策定に貢献して参りました。

このたび、旧丸井今井旭川店の空き店舗を活用した公共空間の整備をはじめ、北彩都あさひかわ整備事業などの取組が評価されましたことは、大変喜ばしいかぎりであり、今回の受賞を契機に更に関係機関・団体等との連携を密にしながら、中心市街地の活性化に寄与するよう努めて参りたいと考えております。



空き店舗活用事業



歩くスキーコース、大会開催



地域交流センター
(旭川市公会堂) 整備事業



街あかりイルミネーション設置事業



中心商店街出店促進事業



北彩都ガーデン整備事業